

# 三河湾ブルーカーボン推進事業

アマモ場再生に向けた実証実験



2024.10.10

## ～事業の目的～

藻場等に取り込まれる二酸化炭素（ブルーカーボン）に着目し、かつて藻場が広がっていた三河湾において、アマモ場の造成を行う実証事業によって、今後の藻場拡大に向けた知見を得る。

波浪の高いところで造成方法を探る→南知多町  
条件に適したところで造成方法を探る→佐久島

## (2023年度) 生育条件調査結果 (概要)

地点 【調査日】	南知多町 【2023.10.24】	西尾市佐久島 【2023.10.23】	田原市 【2023.10.22】
海草の生育状況	無	有 (アマモ)	有 (アマモ)
生育場所の水深	—	0～2 m	0～1 m
波浪の強さ (「弱」が適)	強	弱	弱
底質の特長 (「砂」が適)	砂	砂	礫 (小石)

実験対象地として  
以下の2地点を選定。  
・南知多町  
・西尾市佐久島

# 実験の関係地点

①種採り：2024. 5.25

②種追熟：2024. 5.25～9.18

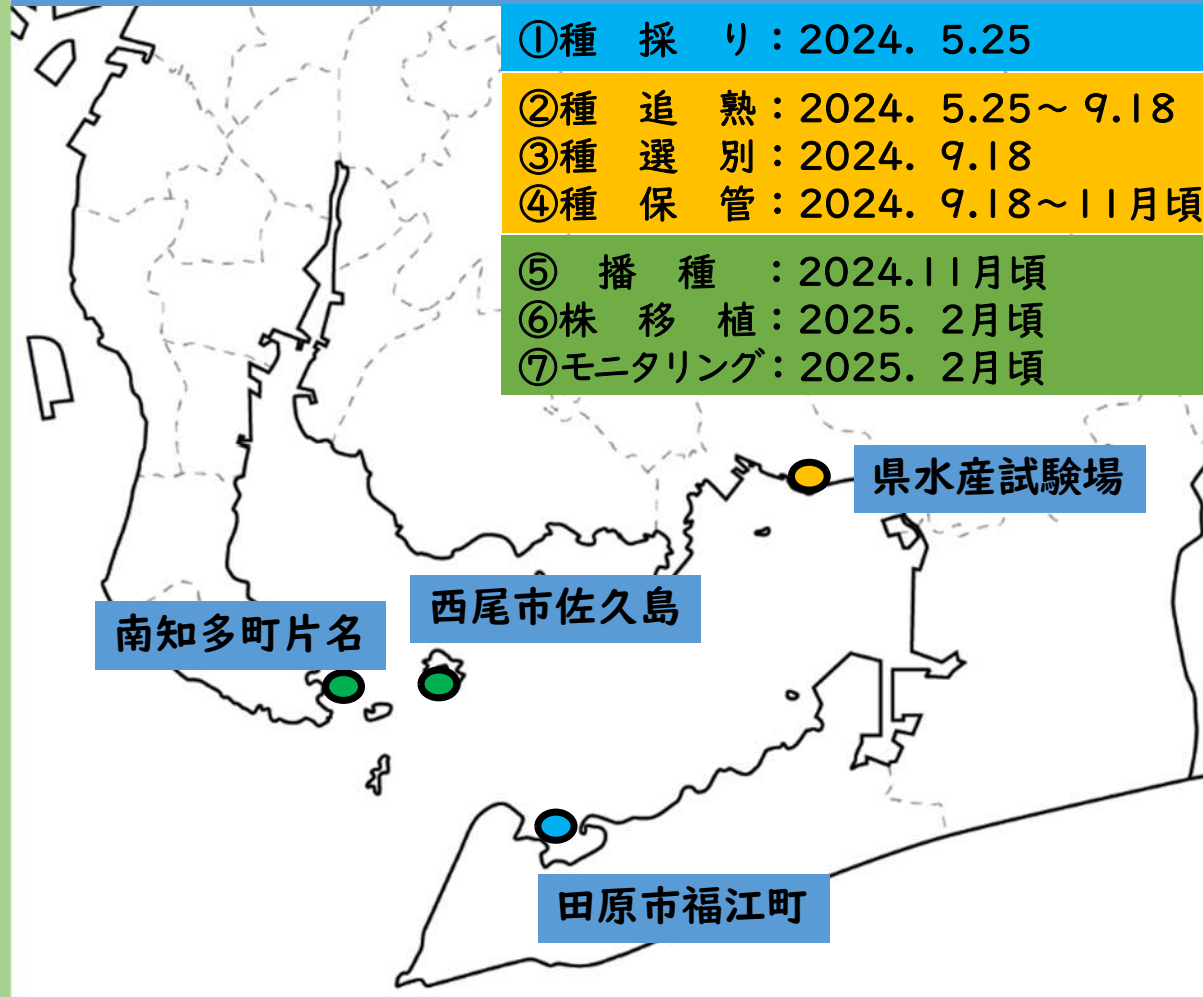
③種選別：2024. 9.18

④種保管：2024. 9.18～11月頃

⑤播種：2024.11月頃

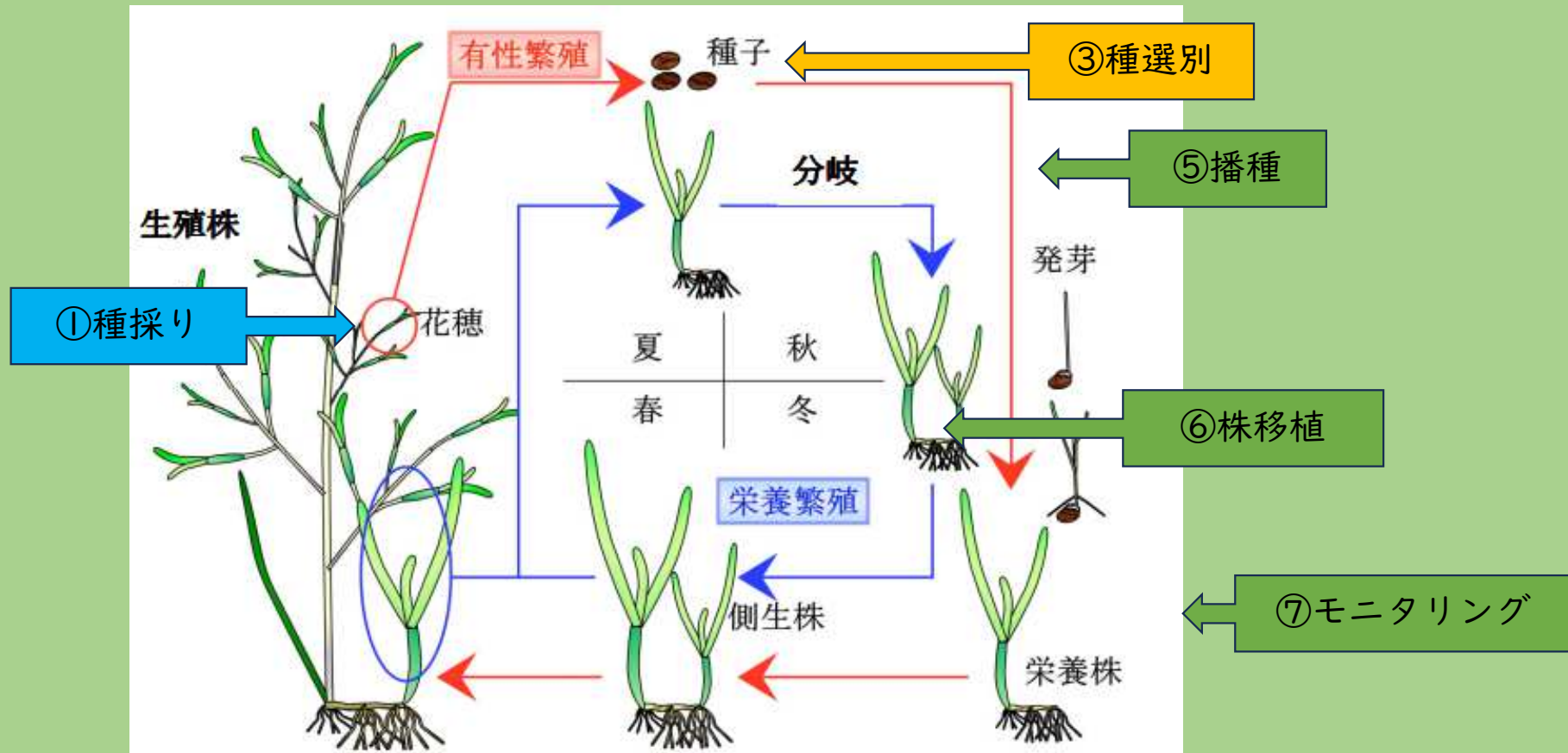
⑥株移植：2025. 2月頃

⑦モニタリング：2025. 2月頃



# (参考) アマモの生活史

出典：三重大学大学院生物資源学研究科論文



# ① 種採り（アマモの花枝を採取）

2024/ 5/25 @ 田原市福江町

アマモの花枝  
(種が入っている)



20名、1時間で採取した

アマモの花枝を詰めた袋  
(26袋、推定約10万粒)



## ② 種追熟

2024/ 5/25 ~ 2024/ 9/18 @ 県水産試験場



採取直後の様子



約1か月後の様子

成熟したアマモの種



8月の袋の中の様子

### ③ 種選別

2024/ 9/18 @ 県水産試験場



1.袋の中身をふるいで分けて、種より大きいものを除く。

☆7名、2時間で選別した

2.ふるい落とされた種をバケツに移し替えて、海水で洗浄する。



未成熟な種は浮く。

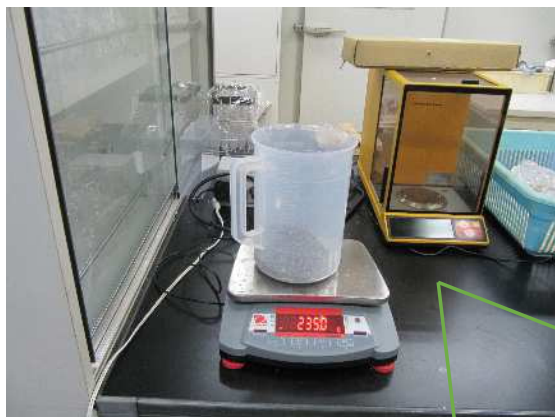
3.飽和食塩水を用いて、成熟した種を分離する。



分離した種

## ④ 種保管

2024/ 9/18 ~ 2024/11月頃 @ 県水産試験場



冷蔵庫にて5°C以下で冷蔵保管  
(発芽と腐敗を防止するため)



選別直後

約2万粒の種があった

1g中に含まれる  
種の数を知る



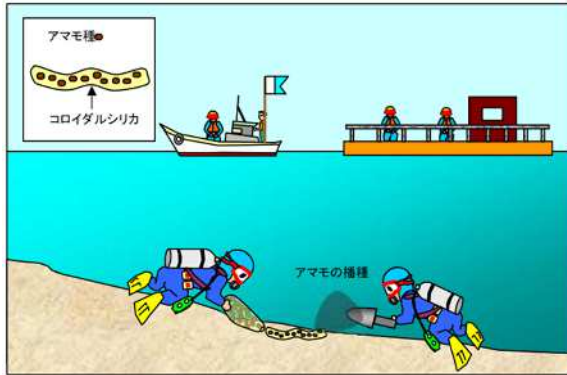
今後、週1~2回、  
海水を交換しながら  
5°C以下で保管を続ける。



# ⑤ 播種（アマモの種をまく）

2024/11月頃 @ 南知多町、佐久島

コロイダルシリカ法



麻袋法



粘土法



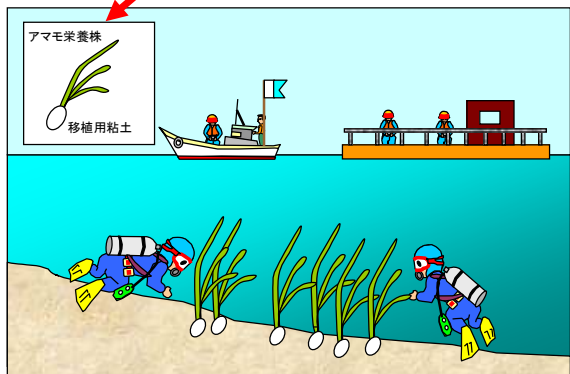
～特徴～

- ・コロイダルシリカ法  
効率良く作業できる
- ・粘土法  
着底が容易、材料が安い
- ・麻袋法  
着底が容易、材料が安い、  
波当たりに強い

# ⑥ 株移植（アマモの株を移植） 2025/2月頃 @ 南知多町、佐久島



粘土結着法



全面移植	市松模様状移植
特徴：確実性が高い 場所：佐久島、片名	特徴：コストが安い 場所：佐久島



種をまいた場所の近くで、  
1m<sup>2</sup>当たり20本の株を移植する。

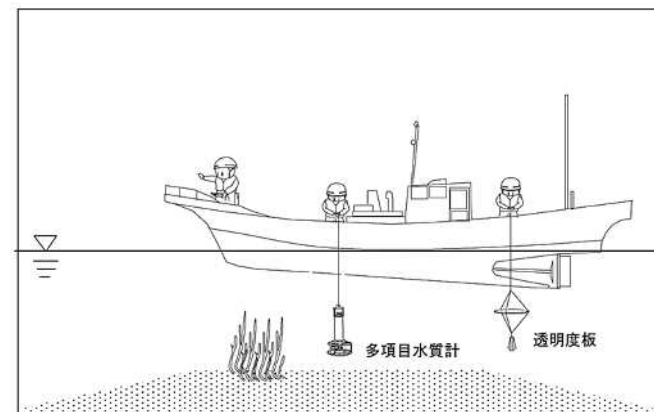
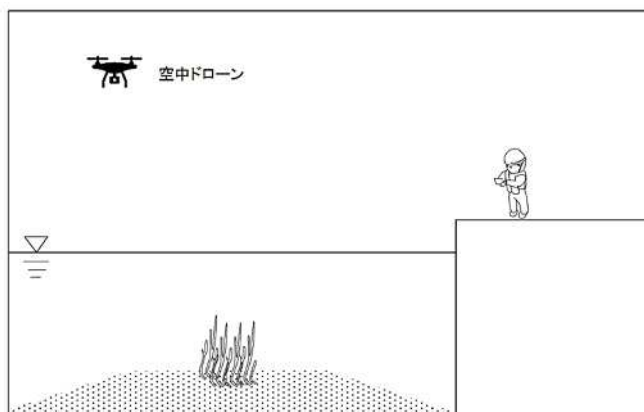
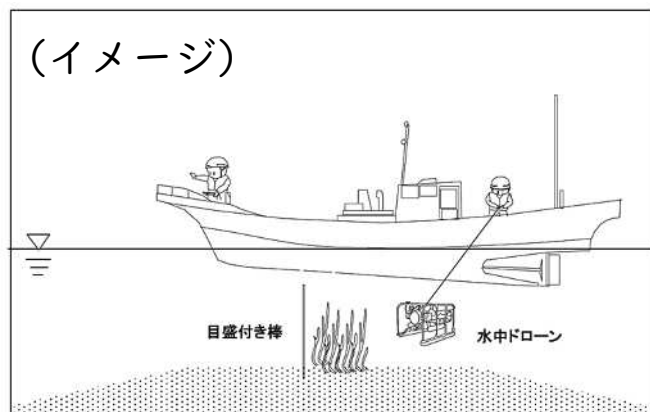
# ⑦ モニタリング (実験の現況調査)

2025/2月頃 @ 南知多町、佐久島

アマモ確認調査	株の被度、発芽状況	水中ドローン使用
	分布範囲	水中ドローン、 空中ドローン使用
生育環境調査	光量子量、透明度、水温、塩分	機器による計測
	海底地形、砂レン、浮泥	水中ドローン使用
	砂面変動	水中ドローン使用
競合生物等調査	競合生物等の出現状況	水中ドローン使用



アマモの生育状況  
と生育環境との関  
係を調べる。



今回の調査結果：

- ・ 実験の様子を動画配信予定。
- ・ 愛知県Webページに掲載予定。

本実証実験をもとに、三河湾のアマモ場再生に取り組んでいきます。

多くの皆様のご参加、ご協力をお願いします。

以上です。ありがとうございました！